

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】平成 19 年 9 月 13 日 (2007.9.13)

【公表番号】特表 2007-503889(P2007-503889A)
 【公表日】平成 19 年 3 月 1 日 (2007.3.1)
 【年通号数】公開・登録公報 2007-008
 【出願番号】特願 2006-525022(P2006-525022)
 【国際特許分類】

A 6 1 L 9/12 (2006.01)

A 0 1 M 1/20 (2006.01)

【F I】

A 6 1 L 9/12

A 0 1 M 1/20 D

【手続補正書】
 【提出日】平成 19 年 7 月 13 日 (2007.7.13)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】特許請求の範囲
 【補正対象項目名】全文
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項 1】

揮発性液体を大気中に散布するための装置であって、

揮発性液体 (2) を収納するリザーバ (1) と、該リザーバから大気中に液体を伝達するように適合された、少なくとも 1 つの液体伝達部材 (12) とを含み、

前記伝達部材は、装置を動作させる前に、少なくとも 1 つの破損可能区間 (7) を有する壁 (5) によって、液体から隔離されているとともに、少なくとも 1 つのブレーカ要素 (11) が設けられており、該ブレーカ要素は、装置を動作させるときに、破損可能区間と接触させられるとそれを突き破り、それによって前記伝達部材を液体に晒すことができるようにされた、前記装置。

【請求項 2】

伝達部材が毛細管チャネルを含む、請求項 1 に記載の装置。

【請求項 3】

リザーバから大気中に揮発性液体を制御可能に散布する方法であって、

少なくとも 1 つの破損可能区間がその中に設けられている壁によって液体から隔離されて、リザーバから大気中に液体を移送するように適合された伝達部材をリザーバ内に設けること、および

所望の際に、前記破損可能区間を突き破ることのできるブレーカ要素を強制して、その区間と破壊接触させて、それによって伝達部材を液体にさらすことによって散布を行わせることによる、前記方法。